

目に見えない困難 —留学生の立場から—

シン・ジュヒョン
(立命館大学衣笠総合研究機構)

こちらは当日発表した内容を原稿として使用しております。

こんにちは、シン・ジュヒョンと申します。本日はこのような機会をいただきありがとうございます。今回は、主に自身の経験から、お話をさせていただきたく思います。私は、韓国出身で、2014年に先端総合学術研究科に入り、2020年度に学位を取得しました。来日し7年目になります。今年度から、授業担当講師として授業をしております。

まず、ひとつめに日本語のコミュニケーションについてお話しします。日本で留学生である以上、自分の母語でない日本語でコミュニケーションをしたり、日本語の授業を受け、日本語の文献を読んだり、書いたりすることは、当たり前のことです。韓国語と日本語は似通った部分が多く、確かに韓国人にとって、比較的学習しやすい言語でもあります。韓国人の中では日本語学習は、発音や文法が韓国語と似ているため、初めは笑いながら勉強し、しかし、漢字やカタカナ、長音などが難しく、日本語学習が終わる際には泣きながらやめるという例話があります。来日する前に私は、日本語能力試験1級に合格したので、日本での生活も研究も大きな障害がないだろうと根拠なく思っていました。しかし、大学院生活がスタートしてからすぐに、それが大きな錯覚であることに気づきました。実際の授業や生活での日本語の話すスピードや使う表現も学習した内容と異なっていたからです。来日7年目になった今は最初と比べ、だいぶ慣れ、特に大きな問題はなく、困らない程度に日常生活はできるようになりましたが、コロナ禍によって日本語を直接的に活かせる機会が少なくなったと感じます。

図1は、合格して喜んでいる私と日本に来てから絶望している私のイラスト二つをスライドに入れたものです。



図1

ふたつめに、オンラインならではの問題を取りあげます。コロナ禍により授業やミーティングなどが以前と比べ、オンラインで行われる場合が増えました。その中で、オンラインでのやり取りが増えたことで「オンラインならではの」問題を感じるようになりました。私がいふ不便さを感じたことは以下の3点になります。

- 1) 似通った用語や複雑な説明での理解がしづらくなっている。
- 2) 授業での相互作用が以前と比べ難しい。
- 3) わからないことについて質問や反応を示すことが難しい。

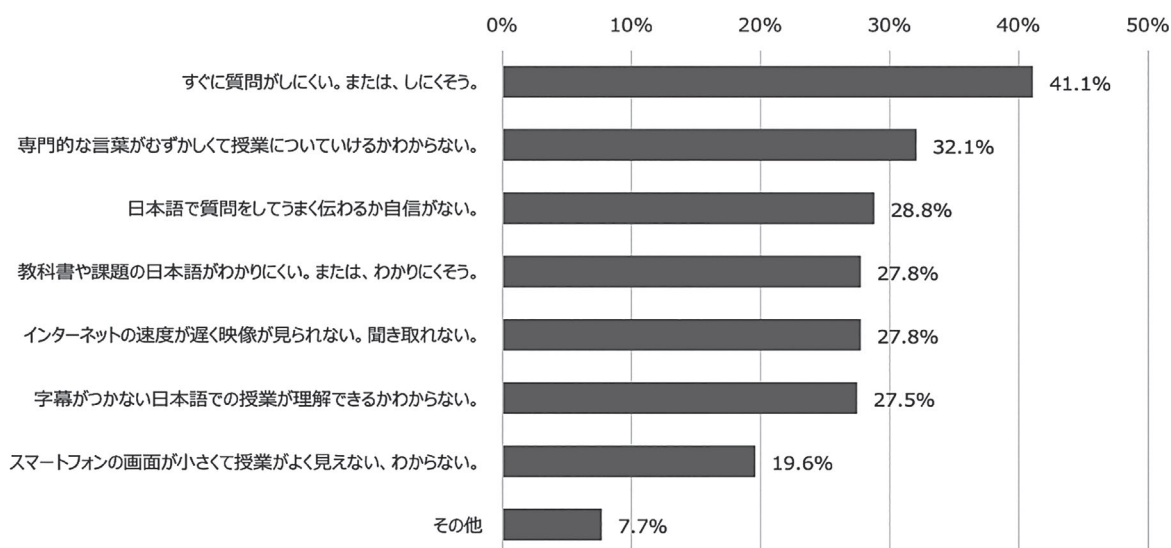
次に、オンラインにおける「壁」についてお話しします。

オンラインの授業になったから物理的距離に関係なく、異なる場所で、異なる時間帯で授業を受けたり、ミーティングに参加できるというメリットもあります。一方で、私は感じたオンラインならではの問題は来日した時と同じような日本語の壁のようなものでした。

聞き取りにくい単語や表現、韓国人が苦手な発音（区別しにくい用語）などはわかりづらい部分があります。よくわからない用語などでもその場の雰囲気などでなんとなく理解できる場合もありましたが、オンラインの場面ではそれが、難しくなっています。図2にあるように、例えば、日本語の言葉として「じゅよう受容」と「じゅよう需要」の区別がオンラインでは非常に難しく、需要を受容として間違えて理解してしまいその説明がわからず、悩んでいたこともあります。また、「じゅよう重要」との区別も難しいですね。その場合、文字通訳や字幕があれば、理解しやすいです。留学生の学生たちとこのような話をするとよく「壁」という言葉が出てきます。

また、そのようにわからない時には、すぐ手をあげ、質問をしたりすることもできると思いますが、オンラインだと、特に自分もそうですが、積極的な性格ではない学生だと質問するのが難しく、周りの反応などが見えないので自分だけがわからないのではないかという不安もありますし、先生側でも理解しているのかわからなくなっ

オンラインでの授業は、どんなところが不安ですか？【複数回答可】（n=1066）



出所：『新型コロナウイルス影響下における外国人留学生の学習環境および情報収集に関するアンケート調査 2020』（株式会社アクセスネクステージ 2020: 10）https://www.access-t.co.jp/files/20200714_NXG_research_report.pdf

図 2

ている側面が増えていると思われます。

直接、話ができない場合、チャットで質問することも増えていますが、時々、質問を書くのに時間がかかり、チャットは質問の内容が目に見えるので正しい日本語を使わないといけなというプレッシャーがあります。さらに、タイミングを逃したり、日本語での質問をしたり、書いたりすることの難しさを実感しています。

これは教える側でも同じであり、外国語である日本語で授業を行なう際に、一番心配なのは、きちんと伝えられているのかということです。オンラインだからこそ、聞き取りにくいこともあると思うし、直接やり取りをすることより、遠く感じる側面が多くあります。

ここまでの話だと対面の方が良いのではと思われるかもしれませんがそうではありません。対面では対面ならではの困難があります。対面だとその場で緊張して上手く聞き取ることができなかつたり、聞き逃してしまうことが多いです。一時的に終わってしまうことに関しては質問するチャンスもなかなかない時もあります。自分が仮に間違った表現や言葉使いをしていたとしてもその場の雰囲気や流されてしまったり終わることも多いです。加えて、今回のコロナ禍で留学生の多くが来日できないことに直面しています。その意味で学びの機会はオンラインで広がっていると言えます。オンラインでのメリットが確かにあります。

最後に、様々な工夫や配慮についてとりあげたいと思います。生存学研究所や海外の学会では力を入れていま

すが、情報にアクセスしやすい環境を作るためにイベントなどで工夫がされており、文字通訳もその一つであります。実際に活用したことがあり、今後も、そのような工夫や配慮が目に見えない壁を感じる人々に、より必要になると思います。

これは、余談になりますが、自分も経験したことがあります。市役所や病院などに行くときよくあることですが、日本語に慣れていないように見える外国人に、わかりやすくするために、タメ口で説明をされることがあります。とても有り難い配慮ではありますが、場合によっては、初心者の日本語学習者にはより難しくなるかもしれません。日本と似通った敬語がある韓国には日本語教科書の大半ではフォーマルな表現が多く使われ、「です」、「ます」を学びます。そのためむしろ「～だよ」、や「～なの」のようなタメ語には不慣れだと言えます。その場合は、優しく聞こえる日本語にするには、単語やキーワードを提示することがより効果的かもしれません。以上になります。ご清聴ありがとうございました。